

第6学年〇組 家庭科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 題材 「生活に役立つ物をつくろう」

2 指導観

○ 日本では昔から、家庭の中に衣服を作るために布を裁つ・縫う作業が位置付いており、ほころびを繕って大切に使うことが日常的に行われていた。今の社会には既製品があふれ、学校で使う雑巾も購入するようになり、家庭で衣服を製作することはほとんどなくなってきている。しかし、生活を豊かにするためには、ほころびを自分で繕ったり、家庭にある物を再利用して生活に必要な布製品を自分で作ったりしながら物を大切に長く使う工夫がいる。そのためにも、縫製に関する技能を身に付け、家庭生活の中で使っていくことはこれからも必要なことだと思われる。このことから、身近な布製品に関心を持ち、自分で製作する楽しさや喜びを感じさせ、生活の中で生かしていくとする態度を育てることが必要と考える。

本題材では、布で作った袋を「生活に役立つ」物としてとらえさせ、家族のために作る物を考え、これまでに学習した知識や技能を使って生活に役立つ袋を自分で計画、製作し、生活の中でも活用していく力を育てることをねらいとしている。学習内容としては、製作段階で生かせるように今まで学習してきた基礎縫いの復習、ゆとりの必要性の理解、見通しをもった製作を行うための製作計画、袋の製作、友だちの作品の良さを知り、次の学習に生かしていくための作品交流会などがある。このような学習を通して、製作に必要な技能を習得し、自分で作ることの楽しさや喜びを感じさせることは、意義深いと考える。

○ 児童は、5年生の学習で、裁縫用具の使い方を知り手縫いの技能やミシンの直線縫いについて学習している。また、エプロンの製作をおこない、エプロンにあった布地や縫い目そして丈夫にするための縫い方を考えて製作している。

事前に衣生活に関する事前調査を行ったところ、「裁縫が好き」な児童が50%で、「授業以外で裁縫をしている」児童は、42%であった。また、「調理や製作など生活に必要な力を付けるために家庭科の学習は大切だと思いますか。」という質問に対し、87%児童が役立つと答えており、家庭科の学習は大切だと考えていることが分かる。しかし、「家庭科の学習で自分で考えたり工夫したりすることは好きですか。」は53%「家庭科の学習で興味をもったことについてもっと調べてみたいですか。」は54%であり、家庭科の学習は大切だと感じてはいるものの、自分で考え工夫することや自分から進んで調べることは十分にできていない。

そこで、生活に役立つ物作りを通して、自分の思いを大切にし、自分で考え工夫していく製作をしていくことが必要だと考える。

○ 指導にあたっては、自分の生活の中にある袋について振り返り、自分や家族に必要な袋を製作しようとする意欲を高め、製作の見通しをもって製作活動を行っていくようにさせたい。

そこで、身の回りにある袋の観察を行い、袋の役割や機能に気付かせ、誰のためにどんな物を入れる袋を作るのか考えさせる。それから、製作にあたって分からないことや疑問を出させ、分からないことを解決するために、作り方や大きさ等を観察させる。また、紙を使って試作品を作ること、簡単な製作手順を理解させ、ゆとりを考えさせる。この後に、製作計画を立て手順ごとに気を付けることやポイントを考えさせ、製作に対する見通しをもたせる。また、基礎縫いの復習を行い、自分の力を振りかえらせ、製作に使える縫い方を確認させていくことも行いたい。

製作では、それぞれの段階で自分が気を付けるポイントを意識させ、グループ活動の中で、どのようにすればうまくいくのかなど考えを高めたり深めたりできるようにしていく。また、実物見本や段階見本なども準備し、目で見て確かめられるようにしておきたい。最後に、自分が製作した作品の交流会を行うことで、友達よさを見つけ3学期の「伝えよう！ありがとうの気持ち」の作品製作に生かせるようにしたい。

3 目標

- 生活に役立つ物の製作に関心を持ち、自ら製作しようとする態度を育てる。
- 自分の作りたいものについて、適した材料、目的にあった大きさ、縫い方、手順を考え製作計画を立てることができる。
- 目的に応じた縫い方で製作ができる。
- ゆとりの必要性について理解し、製作に必要な道具を正しく安全に使うことができる

4 計画（全10時間）

関：関心・意欲・態度 創：創意・工夫 技：生活の技能 知：知識・理解

	学習活動・内容	手だてと研究に関する手だて	具体的評価規準〈評価方法〉
気 付 く	1 身近な生活で使われている布製品を調べ、学習の見通しをもつ。 (1) 布製品の中から袋について良さや役割を調べ、自分の作りたいものを決定する。 (2) 袋の製作を行うのに分からないことや心配なことを発表する。	○ 袋を観察し、用途や役割について考えさせる。 ○ 製作する物、どんな目的で誰のために製作するのかを明確にする。	関：袋の良さや役割について意欲的に観察し調べている。 〈活動チェック・学習プリント分析〉 創：誰のためにどんなものを作るのか考え、学習プリントに書いている。 〈学習プリント分析〉
見 通 す	3 2 自分の課題をつかみこれからの製作活動に見通しをもち、製作計画を立てる。 (1) 基本的な縫い方の練習をする。 (2) 作る物の大きさ、必要な布の大きさ・ゆとりなどについて知り、課題をもつ。 ・簡単な作り方 ・目的にあった大きさ (3) 完成するまでの見通しをもち、製作計画を立てる。 ・製作手順 ・目的にあった縫い方（丈夫さ、見ため、使いやすさ）	○ 今まで学習した技能を復習できる資料を準備する。 ○ どもくらの大きさがよいか、どのように作るのかを確かめるために、紙などを使って 試しの活動 をさせる。 ○ 製作の時間を知らせ、製作時間ごとの内容を書く 制作計画書 を準備する。 ○ 完成見本 や 段階見本 を観察することで、製作する時に気をつけることを考えさせる。 ○ 考えるポイントを3つ用意する。	知：縫い方や、裁縫道具の使い方を説明できる。 〈発言〉 技：裁縫道具の安全な使い方ができる。 〈活動チェック〉 知：袋作りの簡単な手順が分かる。 〈活動チェック〉 知：ゆとりの必要性が分かる。 〈発言・学習プリント分析〉 創：製作の各段階で気をつけることを、ポイントごとに考えている。 〈活動チェック・学習プリント分析〉
表 現	5 3 課題解決のための製作実習をする。 (1) 計画に基づいて製作活動を行う。 ① しるしつけ・布を裁つ ② 縫う ③ 仕上げ	○ 友だちと協力しながら製作を進めることができるように、グループ活動を仕組む。 ○ 作り方が分かるように 段階見本 や 制作手順の写真 を準備する。	創：目的にあった縫い方を考え自分の思いを形にしようとしている。 〈学習プリント・作品分析〉 技：目的に応じて手縫いやミシンの直線縫い・返し縫いができる。 〈活動チェック・作品分析〉 知：製作に必要な用具の安全な取り扱いを理解している。 〈活動チェック〉
生 か す	1 4 作品の交流会を行い、3学期の題材「伝えよう!ありがとうの気持ち」の製作につなげる。	○ 次の製作に生かせそうな友だちの良さを学習プリントに書いていく。	創：友だちの発表や作品から作品のよいところを見つけることができる。 〈発言・学習プリント分析〉 関：学習したことを生かし、新しい作品を製作しようとする。 〈学習プリント分析〉

5 本 時 平成22年10月27日（水）第5校時 / 家庭科教室にて

(1) 本時の指導観

前時までに児童は、基礎縫いについてふり返りを行い、自分が製作する物について簡単な作り方・大きさや必要な布、ゆとりなどについて学習してきた。本時では、袋の製作のおおまかな手順を知り、自分の製作物に合わせて手順を付け加えることや製作の各段階で気をつけることを完成見本や段階見本を見ながら考えさせていく。このことで、次時からの製作に対する見通しを持たせ、自ら主体的に製作が行えるようにしていきたい。

(2) 主眼

○ 袋製作の手順を知り、自分の製作計画に合わせて付け加えをしたり、各時間の製作において気をつけることを考えたりして製作計画書に書き込み、製作の見通しをもつことができる。

(3) 準備

- ①袋の実物見本 ②段階見本 ③製作手順図
- ④学習プリント（製作計画書）

(4) 過程

学 習 活 動 ・ 内 容	資料・教具	手 だ て	形 態	配 時 (分)
1 前時のふり返りを行い、めあての確認を行う。 製作する時に気をつけることを考え製作計画を立てよう。	④	○	全体	5分
2 自分の製作計画を立て、学習プリントに書き込む。 (1)基本的な手順を、掲示する。	①② ③④	○ 黒板に、製作手順を掲示し、各自持っている製作計画書を見ながら手順を確認していく。	全体	10分
(2)自分で追加する手順を書き加えり、各製作段階で気をつけることを考えたりして製作計画書に書き込む。	④	○ ポケットや飾りなど自分の製作計画に合わせ製作計画書に付け加えさせる。 ○ 実物見本や段階見本を観察しながら、丈夫に縫う部分などを考えさせ計画書に書かせる。 ○考えるポイントを3つ用意する。 ・丈夫に縫うところと縫い方 ・見た目のきれいさ ・使いやすさ	個 班	15分
3 クラスで発表し、本時のまとめをする。 (1)自分が考えたことを発表する。 (2)今日考えたことで、実際に製作ができそうか見直しをさせる。		○ 結果を整理して黒板に板書し、自分の製作計画の見直しに役に立つようする。 ○ 製作計画書を見直し、次の時間の見通しをもたせる。	全体 個	10分 5分

